

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：横浜市十日市場保育園	種別：認可保育所			
代表者氏名：岡田 恵子	定員120：（100）名			
所在地：〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1296				
TEL：045-981-6470				
ホームページ： https://www.city.yokohama.lg.jp/midori/kurashi/kosodate_kyoiku/hoiku/shi_setsu/tookaichibahoikuenn.html				
【施設・事業所の概要】				
開設年月日 1965年7月1日				
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市				
職員数	常勤職員： 21名	非常勤職員	45名	
専門職員	保育士	42名	調理員	6名
	保育士補助	17名		
	栄養士	1名		
施設・設備の概要	乳児室0～2歳児室	3室	遊戯室	1室
	幼児室3～5歳児室	3室	調理室	1室
	事務室	1室	トイレ	3室
	職員休憩室	1室	プール	1
	鉄筋コンクリート造り2階建て 延床面積	874.3㎡	園庭	587.2㎡

③ 理念・基本方針

【保育理念】

現在をもっともよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う

【保育方針】

一人ひとりを大切にする保育

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

横浜市十日市場保育園は、JR横浜線十日市場駅より徒歩10分、十日市場ヒルタウンの広大な団地エリアにあります。隣接して十日市場中学校、近隣には十日市場小学校、老人福祉センターもあり、生徒や高齢者と交流を行なっています。園庭には、花や樹木、稲やサツマイモなどを育てる畑、滑り台や砂場があり、食育につなげたり、子どもたちがのびのびと遊びこめる環境となっています。自然に恵まれた近隣の環境を生かし、大小の公園、新治里山公園に、目的や子どもの発達に応じて散歩に出かけています。

【園の特徴】

育児支援事業-育児相談、育児講座、交流保育、園庭開放等を行っています。

創作和太鼓集団の方が来園し、2～5歳児が和太鼓のたたき方を教えてもらい、日本の伝統に触れ、音やリズムを楽しんだり表現する喜びを感じたりしています。5歳児は行事や高齢者との交流で和太鼓演奏を発表しています。

コロナ禍で自粛する行事や交流もありますが、感染症対策を十分行い分散して実施するなどの工夫をしています。

老人会との交流、公園愛護会と協力して行う花植え、中学生との交流など、コロナ禍前には様々な地域交流を行っていて、コロナ終息後は再開する計画になっています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	西暦 2021年4月26日（契約日） ～ 2021年12月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回 （2016年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 子どもが食に関心を持てるような様々な工夫

園舎を挟んで大小2つの園庭があり、小さい方は草木の植栽や畑として活用しています。種もみから稲作体験をしたり、サツマイモやニンジン、枝豆、キュウリなどを栽培して、収穫して味わったり、スタンプピングなどの制作につなげています。

給食サンプルは玄関前に置き、それを見ながら子どもと保護者が話をしたり、職員に食材や作り方などの質問をしています。保護者会との共催行事の芋ほりを行った後は掘り上げた大きなサツマイモを展示し、子どもや保護者が重さを当てるクイズを企画しました。

調理員は調理過程を動画で撮影し、保育士がプロジェクターに写し出して子どもたちに調理の様子を見てもらうなど、コロナ禍でも保育士と調理員が連携し、工夫して食育に取り組んでいます。

2. 子どもが主体的に遊べる環境設定

子どもがゆったりと遊びに取り組める空間づくりを行い、子どもの発達や興味に合わせ玩具の入れ替えやコーナーの見直しを行っています。0歳児保育室は、つかまり立ちができるよう低い棚を設置し、全員が歩けるようになったころには保育室の中央に手作り滑り台を設置し、子どもが何度も往復して滑っている姿が見えます。幼児室は、畳やカーペットで仕切り、おままごと、絵本、お絵かき、人形で遊ぶなどのコーナーや机上遊びができるテーブルを設置しています。また、子どもの姿が隠れるような高さのパーテーションや、牛乳パックをつなげて蛇腹にした仕切りで、自分の遊ぶ空間を確保することで、設計図を見ながら細かいブロックで作品を作ったりして思い思いに遊びこんでいます。集団活動に移るときは、遊んでいた人形を寝かせたり、ブロックを飾ったりして、自分で気持ちを切り替える姿もありました。保育士は、子どもの個性を尊重し一人ひとりが満足して活動できるよう援助しています。

3. 保護者の意向を取り入れた課題改善への取組

園は毎年度末に保護者アンケートと自己評価を行い、課題の抽出を行っています。

昨年度、コロナ禍で保護者が保育室に入れず保育の様子が伝わりにくいことが課題に挙がり、今年度は保育の可視化プロジェクトを立ち上げ、改善に取り組んでいます。職員はテーマを選んでチームを作り、保護者に保育を伝える工夫を話し合っています。写真に言葉を添えたり、吹き出しで活動の過程を文書化して伝え、保護者も活動に興味・関心を向けるなど効果が上がっています。

◇改善を求められる点

1. 保護者への事業計画のさらなる周知

園は、単年度事業計画を策定して今年度の課題を明確にしていますが、今回の第三者評価利用者家族アンケートでは、事業計画について知っているとの回答は22%にとどまっています。保護者に園の課題や目標（事業計画）に対する取り組みを周知するために、さらにわかりやすく説明することが望まれます。

2. 園情報をわかりやすく公表する工夫

横浜市のホームページから移行して、ワムネットの「ここdeサーチ」に園の基本情報を記載し、利用希望者に必要な情報を提供していますが、子どもの活動や遊びの様子を写真で示すなど、さらに具体的にわかりやすく伝える工夫が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今年度も日々の生活にコロナ感染症が大きく影響し、社会も保育園の状況も大きく変化する中での受審になりました。受審にあたり、全職員で保育園のマニュアルや資料の見直しを行うとともに、自己評価ガイドラインを配布し読み込み、日々の保育を振り返り、意見交換を繰り返し行う中で、課題を明確にしていきました。その中で気づいたことをすぐに保育に反映させ、自分たちの意識を変えていけるように努めました。このように全職員で課題を認識し、工夫し改善できたことは、保育の質の向上とチーム力の向上にもつながったと思います。

コロナ禍ですが、子ども達が毎日いきいきと生活し、楽しい経験を積み重ねられるようにはどうしたらいいのか、全職員で話し合い工夫し保育を行ってきました。そしてその子ども達の様子をぜひ保護者の皆様とも共有していきたいとの思いで、昨年度の保育所の自己評価の課題の一つにもありました「保育の可視化」に特に力を入れ、様々な形で可視化に努めてきました。

今回ご指摘いただいた改善点におきましては、全職員で共有し、検討を重ね来年度以降の事業計画等に反映させていきたいと思っております。又、保育の評価について高い評価をいただいたことは、職員の大きな励みになりました。

保護者の皆様には、アンケートのご協力をいただきましてありがとうございました。今後とも第三者評価の取り組みを活かし、職員一同、子どもたちの健やかな成長と幸せを願い、よりよい保育をめざして自己研鑽に努めていきたいと思っております。

園長 岡田 恵子

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり